

第2回 食に関する指導研修会

令和4年11月27日(日)に、名古屋芸術大学 教育学部 子ども学科 准教授 土井謙次先生を講師にお迎えし、「楽しくなきゃ社会科じゃない!～全員参加型授業にご招待!!～」の演題で研修会を行いました。135名の会員が参加し、土井先生の模擬授業を体験して、社会科の本質や子どもたちを引き付ける資料の提示方法、全員参加型授業の指導の技術などを学ぶ、大変有意義な研修会となりました。

1 社会科の本質とは?

社会科の本質とは「見えるものから、見えないものを見えるようにする」ことであると教えていただきました。田植えから稲刈りまでのさまざまな工程を伝え、生産者の努力や工夫、苦勞などに気付かせることで、感謝の気持ちをもったり、社会の仕組みを理解したりするなどの、「社会認識」ができるようになることを学びました。



【土井謙次先生】

2 効果的な資料の見せ方・子どもの引き付け方を体験!

子どもの心を「つかむ」効果的な資料の提示の仕方を学習しました。資料をただ提示するのではなく、一部を隠して示したり、アニメーションをかけたり、見えるスピードを変えたりすることで興味関心を高めることができるなど、すぐに授業に取り入れたい技をたくさん教えていただきました。また、回答が遅くても、最後までがんばって考えた子どもは褒めて認めるなど、細やかな支援方法を学びました。

3 全員参加型授業のための手だて

楽しく学びながら全員が授業に参加したり、理解を深めたりする手だてを学びました。

- ① ドキドキ、わくわくする仕掛け(くじ引きなど)
いつ指名されるか分からないという緊張感とともに集中力を高め、多くの子に発言の機会を与えることができる。
- ② 全員が起立する
答えが分かった人から座ることで、すべての子どもが授業に参加できる。分かったことをつぶやくように指示をすれば、分からない子が答えに気付くことができる。また、教師は困っている子を見つけ、支援することができる。
- ③ 構造的な板書
子どもの発言は単語で板書し、線をつないで関係付ける(マインドマップ)。そのことで見えなかった原因や理由が明らかとなり、子ども達の理解が深まる。
- ④ 選択肢を示す
ハンドサイン等で自分の意見を示しやすくすることで、考えをアウトプットできるようにする。
- ⑤ 振り返りの共有
ICTを活用し、振り返りを全員で共有する。書けない子のための助けにもなる。

—参加者の声—

- ・教材の示し方や全員参加型の授業を実感でき、その大切さに気付くことができました。
- ・特に印象的だったことは、全員が意思決定しアウトプットする活動をすることで、支援が必要な子どもが分かってくることです。教員主体で進めるのではなく、子どもたちみんなが参加して、一緒に学び合える授業を作っていきたいと思いました。
- ・写真や資料を提示する時には、アニメーションで動きをつけたり、隠したりして、子どもたちが「もっと知りたい!」「考えたい!」と思えるような授業にしたいです。



【研修会の様子】